

令和4年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

		学校番号	29	
(1) 学校教育目標		学 校 名	青森県立三本木高等学校	
		全日制	制課程	本校・校舎・分校
(2) 現状と課題		自己評価実施日	令和5年2月20日(月)	
		学校関係者評価実施日	令和5年2月21日(火)	
(3) 重点目標		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成		
		地域の多彩な有識者で構成される学校評議員会を学校関係者評価委員会として位置づけている。 学校評議員 5 名（地域企業代表 1 名、大学関係者 1 名、保護者代表 1 名、後援会代表 1 名、学校協力者 1 名）		
(4) 結果の公表		本校の学校評価は、職員・生徒・保護者・学校評議員を対象に年 1 回「学校評価アンケート」を実施し、評議員会で評価結果を説明している。また、本校ホームページにおいても公開している。		

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	① 高校と附属中学校間、学年や分掌及び教科間の連携と協力の強化 ② 中高 6 年間を見通した教育計画及び教育活動の構築と充実	① 会議や諸行事（進路講演会、芸術教室、スキー教室等）の実施を通して高校と附属中学校間の職員の連携を密にする。また、中高合同教務会議を開催し、早めの計画と連絡調整を行い、中高それぞれの教育活動が円滑に運営されるように努める。 ② 高校教員による附属中への授業を継続して行う。	① 新型コロナの影響により、中高別開催の行事が多かったが、中高で職員会議や合同教務会議を実施することにより、学校運営に必要な情報を共有できた。 ② 高校教員による附属中への授業を継続して実施した。英語・数学の先取り学習、社会の授業で身に付けた学力を伸長させ、進路実績向上に貢献した。	B	① 中高教職員の相互連携をより強めて欲しい。コロナ禍前に戻すことを次年度の目標にして欲しい。 ② 中高異学年の交流に取り組んで欲しい。それにより下級生は上級生を敬い、上級生は下級生を思いやる、精神的・社会的成長が期待できる。	① 中高合同教務会議は継続し、学校行事の検討や新学習指導要領の研究に努め、併設型中高一貫教育の充実と新教育課程における評価規準について各教科の共通理解を図る。 ② 附属中学生が多くを占める G S コースにおける課題解決学習を充実させ、総合・学校推薦入試における難関大学合格者増を図る。
2	① 自らを律し、他を尊重する、品格ある行動様式を備えた生徒の育成 ② 文武両道をめざした学校活動への積極的な参加 ③ 特別な配慮の必要な生徒への教育相談委員会等による支援体制の構築	① 基本的な生活習慣の確立をめざし、教職員全員の共通理解のもと、統一した生徒指導を行う。 ② 礼儀・挨拶・協調性等を重視した人づくりを目標に部活動を行う。また、「部活動に係る活動方針」により、週 1 日の部活動禁止日を含む年間104 日以上（1 週間平均 2 日）の休業日を設けることを徹底し、文武両道の実現を図る。 ③ 日常的な生徒観察と教員間での情報共有を行い、配慮の必要な内容を確認し、教育相談委員会、スクールカウンセラー等と連携して共通理解を図り対応する。	① 生徒指導部が中心となり、学年間で差違のない生徒指導を実施している。 ② 部長会を通してチーム三本木としての連帯意識を高め、各部が挨拶、清掃、部室管理等に主体的に取り組んでいる。また、新型コロナ感染拡大防止のため、接触者調査を行い、感染拡大防止に取り組んだ。 ③ 生徒観察、面談、学校生活アンケート、保健室からの情報提供等により配慮の内容を確認し、教育相談委員会、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援学校、医療機関等と連携し、組織的に対応した。	A	① 規則や学習課題などで生徒を縛り、生徒・教職員ともストレスを増やさないようにして欲しい。 ② 活動の資本は健康にある。一生を通じた体作りの習慣を身につけて欲しい。 ③ 不登校生徒が増えている状況は憂慮している。原因を把握し、その対策に学校全体として取り組んで欲しい。	① 時間厳守・挨拶・清掃の徹底を中心に「規律ある進学校」の推進のため、校内外における生活規律の確保に努める。 ② 「部活動に係る活動方針」に沿った活動の推進、部活動に打ち込む生徒への支援、部活動再編に向けた協議を進める。 ③ 日常的な生徒観察と情報共有の徹底により、配慮の必要な生徒の早期把握と教育相談委員会及びスクールカウンセラーとの連携を強化する。
3	① 学習意欲を高める授業（授業第一主義）と家庭学習を促進する指導の工夫改善 ② 高い意識と志望を持たせるキャリア教育の組織的・計画的推進 ③ I C T を活用した確かな学力向上をめざし、新しい時代に求められる資質能力を育成	① 校内研究授業・互見授業等を通して指導法の研究を行い、個々の授業改善を図る。学年と教科の連携により家庭学習のための課題の量を掌握し、質を高める。また、成績下位層に対しては、進進者講習や個別指導等の「学び直し」を行うなど、幅広い学力層に対応した指導を行う。 ② 生徒の主体的な進路研究を促し、進路意識の高揚を図る。また、国公立大学進学率の向上と難関大学及び医学科志望者への指導を組織的に行う。 ③ 生徒に配布されているタブレットを活用した学習を実践する。	① 校内研究授業・互見授業等を通して授業改善と指導力向上に努めた。学年と教科が連携し、家庭学習のための課題を調整し、自学の習慣化に努めた。 ② H R 活動、面談等を通じて進路志望達成の意欲を高めた。 ③ タブレットを活用した学習、GoogleClassroom を利用した課題の配布、新型コロナで出席できない生徒へのGoogleMeet による授業のオンライン配信などを行った。	A	① 詰め込み型教育に勉強の意義を見い出せない生徒は、勉強が遅れていくと思う。 ② 人生観、職業観を育み、それを勉強意欲の基盤にして、生徒のモチベーションを上げる指導を工夫して欲しい。 ③ 職業観・勤労観を育むための学習プログラムを取り入れて欲しい。	① 生徒の学力を把握し、学力に合わせた課題の質と量を工夫改善する。 ② 進路行事が円滑に行われるよう、他の分掌との連携を強化し、生徒の進路希望に柔軟に対応できる指導体制を構築する。また、進路資料および関連文献の整理を行い、教員が活用しやすいよう整備する。 ③ GoogleClassroom を課題の添削や解説に活用し、個別指導の充実を図る。
4	① S S H 事業で培われた理数教育のノウハウを継承し、課題解決型の主体的対話で深い学びをめざす ② 外部専門機関と連携した英語指導力向上事業を積極的に活用する。 ③ 中高一貫教育の中に理数教育及び語学教育の運営体制を構築する。	① S S H 事業で培われた探究活動のノウハウを 1、2 学年の G S コースで受け継ぎ発展させる。また、普通コースにおいても総合的な探究の時間における探究活動を推進する。 ② 「進学力を高める高校支援事業」の一環として、英語の授業をすべて「英語」で行う授業を行い、英語を通して情報や問題を理解し、自らの意見を発信できる授業を実施する。 ③ 中高一貫校の特色を活かし、附属中の数学・英語での先取り学習を引継ぎ、学力向上を図る。	① 新型コロナの影響はあったが、1 学年 G S コースは、大学・企業から講師を招き基礎的探究力・表現力を高めた。2 学年のグループによる課題研究はその成果を校内や大学等で発表した。普通コースにおいても年度当初の計画どおりに実施することができた。 ② 講師として東京学芸大学名誉教授など、外部教員も交えたオンライン開催を含め、年間 3 回の研究会を開催し、英語 4 技能評価に対応できる本校独自の英語授業である「三本木メソッド」の研究を進めた。 ③ G S コースの数学・英語において速習・標準のクラス分けを行い、学力の伸長を図った。	A	① 探究活動の発表会は、難易度の高いものもあり、刺激を受けた。保護者への案内をより積極的に行って欲しい。さらにオンライン配信なども検討して欲しい。自分で考え、それを他人に伝えられる。また、友人や大人などと正しくコミュニケーションを取ることでできる人物を育てて欲しい。	① G S コースについては、引き続き各分掌・学年・教科などの担当者と連絡を密にして運営する。特に、2 学年 G S コースの「総合的な探究の時間」について、課題研究型とテーマ追究型を適切に運営する。 ② 英語については、3 年間の研究成果を「三本木メソッド」として定着させ、実践を通して深化させたことを発信していく。 ③ 中高一貫の特徴を生かすためにも、中高の理数・英語教員の連携を強め、学力の伸長につなげられる方策を検討する。
5	① 学校ホームページ（HP）、学校説明会、授業公開等により地域への広報活動に努める。 ② ボランティアなどの地域貢献活動を活性化させる。 ③ 定期的に学校新聞を発行し、近隣の小中学校に本校の教育活動を周知する。	① 学校 H P の更新を随時行い、内容の充実を図る。また、上十三地域の中学校を訪問し、本校の教育活動の成果について、理解を深めてもらう。 ② 夏季休業中に希望者を対象にボランティアスクールを実施し、ボランティアに触れる機会とする。また、ボランティア活動や地域行事への参加を継続的に行う。 ③ 定期的に本校の教育活動を紹介する学校新聞を発行し、近隣の小中学校に郵送や学校 H P 等で周知する。	① 学校 H P の更新の頻度を上げ、学校行事等本校の教育活動の周知に努めた。また、学校説明会は本校への理解を深めることができ、中学生の体験入学は、感染防止対策のため中学校ごとに教室でオンラインによる説明会を実施した。 ② 新型コロナの影響でボランティアスクールは制限されたが、福祉体験として実施した。 ③ 学校新聞の発行はしなかったが、進路指導部が学校 H P に「進路特設サイト」を開設し、進路情報を提供した。	B	① 学校 H P などでの情報発信などを積極的にして欲しい。特に、志願者が増えるよう魅力的な情報発信を検討して欲しい。 ② 外部と交わる地域・教育活動は必要だと思う。新型コロナが収束したら、発信・周知をお願いしたい。	① 本校の特色や教育活動及び成果をこれまで以上に地域の中学校に認知してもらい、志願者増加に向けた取組みが必要になる。そのために学校説明会や学校 H P での発信に加え、本校の情報を様々な機会を捉えて発信していく。 ② ボランティア活動も含め、生徒が地域と関わり、貢献することを通して、地域に開かれた学校であることを周知していく。 ③ 学校 H P の他、GoogleClassroom など S N S を活用し、進路情報などの随時発信を図る。
6	① 教育公務員としての服務規律の確保 ② 教職員間のコミュニケーションを大切にすること ③ 心身の健康管理（ワークライフバランス確保・多忙化解消）	① 教職員の服務規律の確保の徹底について、県教育委員会からの通知や研修資料等をもとに全職員で定期的に確認する。 ② 会議等の場以外でも、教職員間の日常的な情報交換を密にする。また、職員室の談話スペースで談話しやすい環境づくりをめざす。 ③ ワークライフバランスを確保できるよう、業務の効率化を図り、心身の健康を保持する。管理職が率先して休暇を取得し、定時退勤を心がけるなど、休暇を取りやすい環境づくりをめざす。	① 県教育委員会から発表される県内での懲戒処分の情報共有、職員朝会や職員会議等で、非遵行為の未然防止を行った。 ② 定期的な学年・分掌会議以外の場でも生徒についての情報交換や学校課題について話し合う場面が見られるようになった。 ③ 新型コロナ感染症対策のため学校行事は中止や見直しを行い、全体的な業務量は減ったが、感染症対策に関わる職員の業務量は増えている。	B	放課後講習、土日の模擬試験対応、部活動など先生方には感謝しています。働き方改革の時代の中にあり、効率化は賛成ですが、生徒への対話は続けて欲しい。勉強や人間関係で悩んでいる生徒が多いようなので、先生方同士さらにコミュニケーションを取り、生徒に寄り添って欲しい。	① 定期的に服務規律の確認を行っていく。 ② 学校行事や各分掌の業務内容を精査し、業務の効率化を図る。 ③ 教職員の家庭における行事がある際は、積極的に休暇を取得するよう促す。業務に余裕ができたら休暇を取りやすい環境づくりのため、管理職が率先して休暇を取得する。
(11) 総括		今年度の目標は概ね達成されたといえるが、I C T を活用した課題の工夫や学校の活動内容の情報発信など、積極的な取り組みが必要とされている。保護者や地域の方々の評価・意見をに受けとめ、学校が抱える課題を 1 つ 1 つ解決するよう取り組みを継続したい。				